

## 概要

主に医療機関以外の場で生活する人々が抱える健康面や生活面の課題を、個人、家族、集団、組織の視点から捉え、看護職や他職種、地域住民、関係機関等との協働により、コミュニティ全体の課題解決やボトムアップに向けた看護実践に寄与するエビデンスの構築を目指します。

## 主な研究課題

- ▶ 小規模多機能居宅介護を活用した認知症共生プラットフォームの形成と展開
- ▶ 都道府県および市町村における統括保健師の役割の明確化とその推進
- ▶ 介護サービス事業者の成長を可能にする保健師の実地指導技術指標の開発
- ▶ 難病療養者の在宅看護に必要なコンピテンシーモデルの作成
- ▶ 寝たきり非経口摂取高齢者に対する口腔ケアの実装に向けた継続効果の検証
- ▶ パーキンソン病患者の生活習慣・併存疾患・訪問看護利用が予後に与える影響の解明
- ▶ 複合的課題を有する高齢者の社会的孤立解消の効果的・効率的支援の構築に関する研究

## ユニット リーダー

医学研究院保健学部門・教授  
寺岡佐和 (Sawa Teraoka)

## Profile

大学を卒業後、企業の保健師を経て広島大学の助手となり、その後、2008年より九州大学大学院医学研究院に着任しました。2002年から認知症の方と園芸活動をしています。現在は、認知症になっても暮らし続けられるまちづくりへの一歩として、園芸活動を通じた認知症の方と地域の人々との交流の活発化を目指しています。

## Q このユニットの強みを教えてください

当ユニットの強みは、認知症や寝たきりの非経口摂取高齢者など、看護の対象となる人々の特性に応じたケアの開発に関する研究や、行政保健師や訪問看護師などの看護職をはじめ、介護サービス事業者など、地域住民にかかわりが深い専門職の実践活動に寄与する指標や尺度の開発に関する研究、そして、リアルワールドデータを使用した、医療の質向上や医療費の適正化につながる研究など、人々の健康面や生活面の課題に様々な方法でアプローチしている点です。

## Q このユニットの成果が社会実装された際の未来社会、臨床へのインパクトを教えてください。

当ユニットの成果は、個々の対象に応じたより適切なケア方法の提示に加え、看護職をはじめとする専門職の人材育成や保健・医療・福祉のネットワーク構築に寄与できるものと考えます。また、これにより多様な場で暮らす様々な健康レベルにある人々が、社会の一員として持てる力を互いに発揮し、支え合いながら暮らすコミュニティの実現と、個人、家族、集団、組織が抱える健康面や生活面の課題への対処に資することができるのではないかと考えます。

## 認知症者との交流による地域住民の認知症理解の促進



地域住民が園芸活動を通じた交流により

- ✳ 認知症に関する知識を獲得
- ✳ 認知症者の言動への対応スキルを獲得
- ✳ 認知症者支援が実践できる地域住民が増加
- ✳ 認知症になっても暮らし続けられるまちづくり

問い合わせ

寺岡佐和研究室

Email [teraoka.sawa.996@m.kyushu-u.ac.jp](mailto:teraoka.sawa.996@m.kyushu-u.ac.jp)